

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	このこのリーフ あきる野教室			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 1日 ～ 2026年 1月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	24
○従業員評価実施期間	2026年 1月 1日 ～ 2026年 1月 31日			
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	公園遊びなどを多く取り入れ、運動能力の向上を図れる。日常生活に必要な身体の基本的な活動能力を高め、楽しく持久力、運動神経や身体機能を向上できる。家に引き籠もりがちや、運動不足の児童に体を動かす機会を創出している。	外出から帰った後の手洗いうがい、療育など個々の目標に向けて取り組んでいる。連絡帳アプリを活用して当日の活動の写真を父兄に送り安心感を持ってもらえるように意識的に継続している。	体の関節等の柔軟性を高め、怪我をしづらい身体づくりを支援していければと考えております。
2	学習に取り組む癖をつける。施設到着後、学校からの宿題に取り組み、又日によってはテーブルワークなどを行い、学習に取り組む癖づくりに取り組んで知る。	「わからない」という言葉は児童に繰り返し、とてもいいことと何度も伝え、「わからない」ことに対してストレスを感じる子供たちにポジティブな思考をさせることを心がけている。電卓なども利用し、児童がストレスを感じないように取り組めるよう支援している。	物づくり（図画工作）に力を入れている。集中力、継続力、微細運動になることが理由です。
3	社会性の向上を図れる。責任感や協調性など周りの人々がかわる時の態度、マナー、あいさつ、行動を高めることができる。児童の「尊厳」を大切にしている職員の情報共有ができています。	療育については小学低学年でも高学年と同じメニューをこなしているため、高学年に聞いた入り指導してもらっているため一体感が生まれ、協調性が自然とできている。	課外活動に参加することにより地域との交流を深め、態度、挨拶、マナー、行動を正し、責任感、協調性を育ませたい。児童の人格を尊重して児童が自分のことを自分で決め自分らしく生きることがを支援していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の悩んでいることにしっかり聞いてあげられているかまた保護者の児童に対しての要望している健康面、学習面、運動面、社会性をしっかりとサポートできているのか？今後も継続的なサービスが提供できるようにソフト、ハード面から改善して参ります。	送迎時のコミュニケーションだけではその日の様子の報告程度になってしまう。又、送迎時に保護者と話した内容の中に大切な事項が含まれていないか、世間話も重要な情報源としてスタッフ間で共有したい。	児童の場合、危険性がまだ判断できない為、具体例を出して積極的にのしつけと虐待の定義の見直しを行います。人との距離感を理解してもらえるよう、具体的に伝え支援していきます。
2	虐待防止委員会時や虐待防止マニュアルの読み合わせは実施しているが虐待を受けたと思われる児童を発見した場合、速やかに市町村に通報しなければならないことを全員に徹底したい。小さな出来事から虐待にエスカレートしていくので小さな出来事感を現場で共有するための伝達方法が課題です。	「どうしてこんなことができないの」「施設にいらなくなるよ」など職員の発言に注意する。	児童の場合、危険性がまだ判断できない為、具体例を出して積極的にのしつけと虐待の定義の見直しを行います。スタッフと児童がマンツーマンになる状況を避け、多くの目で支援の場を観察できる様に心がける。
3	児童クラブや地域のほかの子どもまた大人の方々との交流が少ない。近いところでは施設の保護者間の交流ができていない。小学生から高校生までの児童が利用しているのでそれぞれのやりたい事、価値観が異なるため児童の満足してもらえる支援方法が課題です。	保護者間の交流を進めるための時間が少ない。保護者参加型のイベントなどの提案ができていない。	レクリエーションの行事を開催し、父兄の参加と同士の交流を深めたいと考えています。保護者にも興味を持ってもらえるイベントなどを行っていきたい。